

今回は12月15日に行われた講演会「UNHCR: 私の現場体験」についてお伝えします！

講演会ではUNHCRで国連職員として23年間勤務された浅羽俊一郎さんに難民問題の現状やそこで浅羽さんご自身が実際に行われていたことについてお聞きしました。

## 講師 浅羽俊一郎さん

浅羽さんは東京YMCAという青少年教育団体での勤務を経て、UNHCR[国連難民高等弁務官事務所]で難民救援事業のため、パキスタンやソマリア、ジュネーブ本部などで国連職員として23年間勤務された方です。

小学生時代をアメリカで過ごしたという浅羽さんは当時日本人であることを少しばかりにされるようなこともありましたが、様々な人種の人々と過ごした幼少期はとても貴重なものであったと語っています。

## 国連で働く



### -仕事-

浅羽さんが行っていたことは難民の救援事業。主に難民キャンプに支援物資がきちんと届いているか等を確認することでした。難民キャンプが行われている地に行き、状況を把握してはレポートにまとめます。その後、本部に報告や相談をするということを繰り返していました。

### -言語-

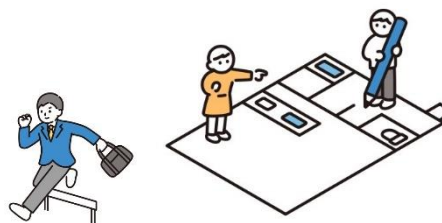
国連の職員は様々な国の人々。会話の主な言語である英語は特に、聞き取ること、レポートにまとめる力が求められたといえます。しかし国連では働いていく中で現地救援に赴くことも多く、英語力は自然と上がっていったそうです。

### -よかったこと-

日本国内では同じ国の人に囲まれパソコンと向き合うという職が多い中、国外の仲間と実際に現地へ赴いて仕事をしたことはとても大きな魅力的な体験であったと浅羽さんは言います。退職後の現在でも国を超えた仲間との交流は連絡や同窓会などを通して続いているとおっしゃっていました。



## 浅羽さんが私たち高校生に伝えたいこと



浅羽さんは高校生をメインに講演を行っているそうで、その理由は大学生ではもう遅いから、とのこと。自分の就きたい職や進みたい道の可能性がまだまだ定まりきらずに広がっている高校生に、このような働き方や海外というものへの視野を広げてほしいという思いを伝えてくださいました。

実際に海外で現地に赴いたり、多国籍の職員とともに働いたりして、浅羽さんが学んだのは「日本人は世間に合わせていたい」という考えを持ちがちではないかということです。写真を撮るとなったら、日本人は無意識にピースサインをする傾向にあります。日本人の多くはそのようなピースの意味も知らないはず。このような場面に日本人の「合わせる精神」を感じる事が多くあるといいます。そんな浅羽さんが生きる中で意識していることは

- ・  $\alpha + 1$
- ・ やる気、勇気、陽気、人への関心
- ・ Secure base
- ・ 息抜きは大事



$\alpha + 1$ は何かを行う際になんでもいいから一つを加える、アクションを起こすということ。Secure baseは自分の心で何か一つ、基になるもの(応援ソングや名言など)を持つということ。息抜きは浅羽さん自身も国連に勤務中も現地でジャズバンドへ参加するなどの趣味を持っていたそうです。

## 最後に

今回の The World times は文章面となってしまいましたがいかがでしたでしょうか。今回報告した講演の内容については一部ではありましたが、何か少しでも大高生に通ずるものや学び、関心を得られるものになっていれればいいです。

国連という大きな機関で実際に働いた浅羽さんのお話から、難民問題や海外への関心はもちろんですが、他の面、勉強にも通ずる視点を肥やす機会にしてみたいかがでしょうか。

最後までご精読ありがとうございました！

-ちなみに-

今回の講演会でお話して下さった浅羽俊一郎さんは、現在浦和西高校近くにある「き咲きてらす」で国籍や年齢を問わない人々の交流の場を設けています。英語を話す日、外国ルーツの中学生の学習サポート、知見を深める対話などを行っています。興味のある方は訪れてみてはいかがでしょうか。